

JR室蘭線活性化連絡協議会 地域公共交通再構築調査事業の取組状況

●事業の結果概要

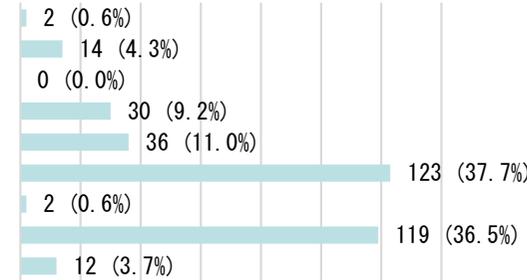
(1) 普段の室蘭線の利用状況について

問 室蘭線を使っての外出についてお答えください【調査結果より抜粋】
問 応募されたきっかけにあてはまるものはどれですか。

週5日以上	0	0.0%
週2~4日	1	0.5%
週1~2日	1	0.5%
月3~4日	1	0.5%
月1~2日	7	3.5%
年数回	75	37.7%
全く使わない	114	57.3%
合計	199	100.0%

通勤・通学に使用したい
買物に使用したい
通院・付き添いに使用したい
飲食店の利用に使用したい
飲食店(アルコール提供店)の利用に使用したい
遊び・レジャーに使用したい
仕事での移動に使用したい
室蘭線の沿線観光に使用したい
その他

▶モニター参加者は、普段から自家用車での移動が多く、室蘭線を利用するきっかけとしては観光・遊び・レジャーとなっている。



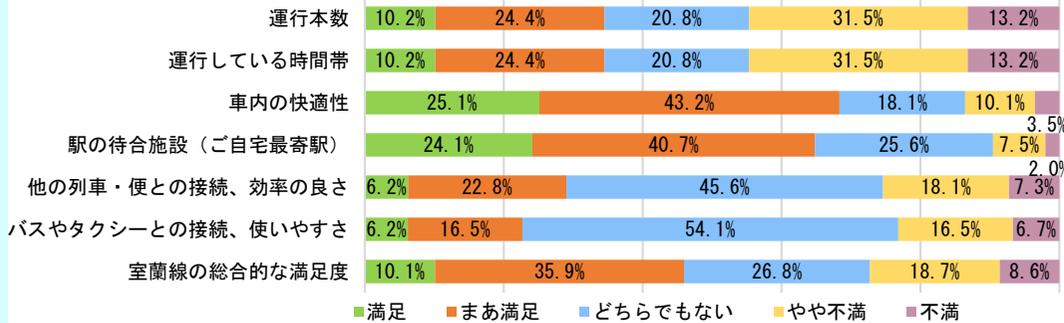
検証を踏まえた今後の方向性

JR室蘭線は通学利用を除き日常的な利用が少なく、モニター事業参加者への調査でも、希望の時間帯に列車が運行していないため、自家用車での移動が多い結果となり、利用機会が限られている。

そのため、室蘭線の利用価値を「移動」から「体験」へ広げる観点から、沿線イベントへの来場手段として、鉄道利用を積極的にPRするとともに、休日における需要を踏まえた適正ダイヤの設定を検討する。

(2) 室蘭線の利用満足度について

問 室蘭線をご利用になった満足度についてご記入ください【調査結果より抜粋】



▶満足度が高い項目としては、車内の快適性、駅の待合施設となっており、移動空間としての快適さと非日常空間が評価されている

▶鉄道ならではの楽しみとして、「アルコールが楽しめる」や「自由に景色を楽しめる」といった自家用車にはないメリットを享受できている。

▶満足度が低い項目としては、運行本数、運行している時間帯となっており、待ち時間の増加等により利便性が損なわれている。

検証を踏まえた今後の方向性

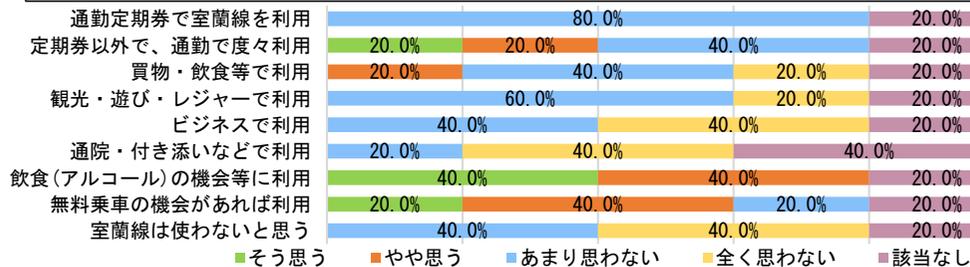
運行本数及び運行時間帯に関する不満が顕著であり、特に昼間に運行空白時間帯が存在することにより、利用者の移動行動が制限されている。

このため、他の交通機関との相互補完を前提に、効率的な交通ネットワークの形成に向けたあるべき交通体系の検討を進めるとともに、バス接続及びJR他路線への乗換に関する情報発信を強化し、利便性の向上を図る。

また、不便な中でも鉄道利用の楽しみを享受できるようにソフト面の改善を図る。

(3) 自家用車通勤と室蘭線通勤の満足度比較について

問 室蘭線を通勤でご利用になり、今後の室蘭線の利用意向について伺います。【調査結果より抜粋】



▶高速性や定時性など、鉄道に期待されるサービスへの評価は高いが、室蘭線の欠点である利用時間帯との適合性の不満が高いため、自家用車から鉄道への転換は見込めない。

▶今後の利用意向では、通勤での利用は見込めないものの、飲食(アルコール)の機会等での利用は期待できる

検証を踏まえた今後の方向性

鉄道に求められる基本的なサービスに対する評価は高いものの、利用時間帯との適合性の要因により、自家用車からの転換は見込めないと考えられる。

通勤での利用拡大には、通勤時間帯に合わせてダイヤを調整する必要があり、通学利用との調整が不可欠であることから、鉄道利用者の実態調査(目的・区間など)を行い、需要に応じた列車運行体制への見直しを検討する。

JR室蘭線活性化連絡協議会 地域公共交通再構築調査事業の取組状況

●事業の今後の改善点(特記事項含む)

モニターの利用満足度は運行本数と運行時間帯の不満が多く、特に通勤定期モニターの調査結果からは今後も通勤定期で利用する人は少なく、現状を上回る利用を見込めない結果となった。

今後、他の交通機関との相互補完を前提に効率的な交通ネットワークの形成に向けたあるべき交通体系の検討を進めるとともに、バス接続及びJR他路線への乗換に関する情報発信を強化し、利便性の向上を図る。

- (1)引き続き沿線住民の生活の足を確保していくため、マイレール意識の醸成を図る取組みや定期外収入の増加に向けた利用促進の取組みを推進する。
- (2)JRと並行して運行するバス事業者等と連携し、運行空白時間帯を相互に補完し、利用需要に応じた適正なダイヤ設定を検討する。
- (3)札幌圏から近距離にある沿線の優位性を活かし、地域イベント等との連携による誘客施策を検討し、新規利用者の獲得及びリピーターの拡大を図る。
- (4)沿線駅周辺の観光施設・飲食店に関する情報発信や室蘭線を使ったモデルコースの提示により、室蘭線の利用価値を高め、観光利用の促進を図る。
- (5)1日フリー切符を活用した利用促進策(発売方法の改善を含む)を検討し、鉄道利用の楽しさを知った潜在利用者層へのアプローチを図る。

上記の改善項目を踏まえ、沿線関係者の連携のもと、沿線の利用価値向上に資する取組を推進し、地域交通の利便性及び持続性の向上を目指す。

●事業実施の適切性

概ね事業は適切に実施された。

●地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果

- ・事業は計画どおりに実施されている。
- ・他の交通機関との相互補完を前提に、効率的な交通ネットワークの形成に向けたあるべき交通体系の検討を進めるとともに、バス接続及びJR他路線への乗換に関する情報発信を強化し、利便性の向上に資する取組みをご検討いただきたい。
- ・今後、持続可能性と利便性の高い地域公共交通への再構築に向けて取り組んでいただきたい。